

台風19号、甚大被害

国労水戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 久保田重明
編集責任者 坂下 司

いわきへ支援物資

10月12日から13日に、関東から東日本にかけて台風19号が通過し、各地で甚大な被害に遭われた。

いわき市では浸水で水の供給が出来ないため、国労は支援物資をいわき分会に届けた。台風被害に遭われた皆様に心からお見舞い申しあげます。

記録的な大雨による河川の決壊、氾濫で、鉄道にも影響が出た。水郡線では大部分が不通となっていたが、11月1日、一部運転を再開した。常陸大子く西金間は久慈川の橋梁

が流されたために、再開の見通しは立っていない。

一人でも
国労へ相談。
みんなを楽しく
がんばろう！

いわき市では、夏井川が決壊し浸水した。各浄水場が浸水被害を受け、市内45000世帯に水が供給できない状況が数日続いた。

26日、本部から佐藤書記長、武笠書記、東日本本部から伊藤書記長、中村書記が、東京からトラックに荷物を積みこみ、福島支部事務所へ届けにきた。各家庭に配布された。

その後、各家庭に水の供給は開始されるようになった。一日も早く元の生活に戻れるように願います。

第7回国労フクシマ 学習交流会

とき 11月24日(日)
場所 ホテルプリシード郡山

JCO臨界事故20周年集会

9月29日、東海村でJCO臨界事故20周年集会が開催された。

集会に36自治体首長からメッセージが寄せられた。集会は黙とうで始まり、

臨界事故を語り継ぐ会の大泉実成さんが地元挨拶した。内科医の振津かつみさんから「JCO臨界事故とフクシマ」と題して講演を行った。

東海村の臨界事故は、日本で初めて被爆による死亡事故で一般市民にも被害があった。東海村の事故をフクシマ

事故に生かされなかった悔しさもある。

刑事裁判では国や動燃の責任が問われなかった。

今なお、健康被害の補償がされていない。JCO事故を語り継ぎ、住民の健康診断やアンケート活動を継続していこうと訴えた。

東海第2原発運転差し止め裁判について、青木秀樹弁護士から報告した。

集会終了後、JR東海駅までをデモ行進した。集会には300人が参加した。水戸地本から11名が参加した。

